産業社会学部40周年記念　連続シンポジウム
「21世紀の世界と日本を読み解く
――新たな社会パラダイムを求めて――」

回　日時	テーマおよび報告者
第１回（７月13日）	**「市民社会パワーアップ――大学と NPO・NGO のパートナーシップを探る」** 基調報告 高橋　正人氏（立命館大学産業社会学部） 講演 「市民社会のパワーアップと大学の役割」 中村　陽一氏（立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科教授） パネルディスカッション「大学と NPO・NGO の連携強化を展望する」 報告 「大学との連携による市民活動の広がりと深化」 深尾　昌峰氏（特定非営利活動法人　きょうと NPO センター理事・事務局長） 「人材供給源としての大学――学生主体 NPO 法人の実践を通して」 能島　裕介氏（特定非営利活動法人　ブレーンヒューマニティ理事長兼事務局長） 「大学と共同組合のパートナーシップ：医療生協プロジェクトの経験」 篠崎　次男氏（立命館大学客員教授） 「学生の学びと成長を支えるパートナーシップ：ボランティア研究の経験から」 津止　正敏氏（立命館大学産業社会学部） パネルディスカッション
第２回（１月29日） 10月９日を予定していたが台風のため延期	**「新たなシティズンシップを求めて～福祉社会とガバナンス」** 基調報告 山本　　隆氏（立命館大学産業社会学部） 講演 「シティズンシップと市民社会」 中村　健吾氏（大阪市立大学大学院経済学研究科） 「NPO によるホームレスの自立支援活動」 水田　　恵氏（特定非営利活動法人自立支援センター　ふるさとの会）
第３回（10月22日）	**「世界の現在（いま）をどう伝えるか――ジャーナリズムの新たな役割を問う」** パネルディスカッション 綿井　健陽氏（ジャーナリスト／アジアプレス所属） 原　　寿雄氏（ジャーナリスト／元(社)共同通信社専務理事・編集主幹） 神保　哲生氏（ジャーナリスト／ビデオニュースネットワーク代表） 鈴木みどり氏（立命館大学産業社会学部）
第４回（11月５日）	**「情報化社会の中での文化的アイデンティティの揺らぎ」** 基調報告 景井　　充氏（立命館大学産業社会学部） 講演 「日本社会のアイデンティティ問題――再建か解放か」 正村　俊之氏（東北大学大学院文学研究科教授） 「アノミー化する「個性」と親密圏の変容――若者の「生きづらさ」をめぐって」 土井　隆義氏（筑波大学大学院人文社会科学研究科助教授）

第５回（11月26日）	**「21世紀社会をデザインする――新たなパラダイムを求めて」** 講演 ボブ・ジェソップ氏（イギリス・ランカスター大学） ヨアヒム・ヒルシェ氏（ドイツ・元フランフルト大学） 篠田　武司氏（立命館大学産業社会学部）

2004年度　産業社会学会（教員・院生）共同研究会一覧

回　　日　時	テーマおよび報告者
第１回（５月30日）	「〈危機の時代〉の行為論」 中村　文哉氏（山口県立大学助教授） 鈴木　健司氏（盛岡大学助教授） 「社会的行為理論と予測可能性」 宇都宮京子氏（東洋大学教授）
第２回（６月26日）	オープンフォーラム　ICT時代におけるアクティブ・オーディエンス 基調講演 「なぜGMMPか？ジェンダー，メディア，エンパワーメント」 テレシタ・ハマノ氏（ANWICリソースパーソン／フィリピンCFAエグゼクティブ・コンサルタント） パネルディスカッション 「ICT時代におけるアクティブ・オーディエンス，ジェンダー，メディア・リテラシー」
第３回（７月８日）	「国際交流と異文化理解，異文化間コミュニケーション教育」 影戸　誠氏（日本福祉大学教授，メディア教育センター副センター長）
第４回（７月16日）	「ベトナムにおける障害児教育と教員養成の現状と課題」 グエン・ティ・タイン・ビン氏（ホーチミン師範大学障害児教育学部学部長）
第５回（10月16日）	「マックス・ウェーバーの方法論的合理主義」 矢野　善郎氏（中央大学文学部専任講師） 橋本　直人氏（神戸大学発達科学部専任講師） 河村　有毅氏（立命館大学社会学研究科後期博士課程）
第６回（11月16日）	「スウェーデンにおける労働市場の特徴」 Birger Viklund（ビリヤール・ビクルンド）氏（スウェーデン国立労働生活研究所） Tommy Nilsson（トミー・ニールソン）氏（同）

2004年度に，学部共同研究会（共催を含む）として位置づけ開催した研究会一覧である。